



内田 勇 議員

## 元気なまちづくりは、若者、女性の創業・起業支援を

**町長** 助成金の創設については、検討課題とする



**問** 新規雇用する町内企業に対し助成金の創設と共に、元気なまちづくりには若者や女性の発想で新たな会社や事業がふえなければならぬ。創業支援、起業支援のための助成金制度導入と、創業相談窓口の設置を。

**答** 商工会や金融機関と連携し起業セミナー等開催したい。助成金の創設については今後の検討課題とした。

**問** 若者がふえ若い女性が一人でも多く住めるように、定住助成金の増額をし、人口減少対策を。

**答** 人口減少対策の世論調査で、子育て世帯への支援拡充が50%と高く、医療や福祉のサービスが

40%と人口減少対策といわれている。

**問** 地産地消の推進で地域経済が元気になり、町内でお金为好循環し、地域の経済が元気になる仕組みの構築をすべきた。

**答** 奥出雲町は、恵まれた豊かな自然の中で生産された農産物の利用促進や消費の拡大を図るため、現在地産地消促進計画と奥出雲町食育推進計画を一体的に策定するための推進委員会が設立され、プロジェクトの検討協議を進めている。

松江市か出雲市等でアントナショップを開設することも一つの案だが、今後検討していく。

**問** 高齢者が笑顔で暮らせるように、リハビリ専門職、在宅訪問等で高齢者を支えていく職員の採用と共に、元気な高齢者が介護ボランティアとして施設等で働くポイント制度の導入を考えよ。

**答** リハビリ専門職が定期的に高齢者に関与する

ことにより介護予防に効果があり、運動プログラムの提案、助言により通所や訪問における自立支援を促すことができる。

専門職の採用により介護予防事業の幅が広がり、高齢者の介護予防に大いに貢献できるが、職員定数や人件費の関連もあり今後検討したい。

**問** ふるさと納税制度が13年度には4万5千件、総額12億6千万円と報道された。

国も地方創生のために15年度からふるさと納税の上限を2倍に引き上げ、手続きも簡素化されるようだが、全国に発信できるふるさと納税を活用し、おいしい仁多米、奥出雲和牛の振興を図ることは有効な手段である。

**答** 藤原企画財政課長 現在JA雲南と協議をし、奥出雲和牛をお礼の品に加えた。

またヤフーで「ふるさとチヨイス」というポータルサイトを載せており、

11月からは、このサイトから直接寄附の申込みや支払い、お礼の品物の注文までワンストップでできるシステムに変更し、今後件数、金額が大幅に増えるものと期待している。

**問** 胃がんの8割がピロリ菌の感染が原因であり、ピロリ菌の除菌で3割から4割の割合で胃がんを減らせると世界保健機関も9月に発表した。町としての取り組みは。

**答** 内田健康づくり推進課長 ピロリ菌の除菌対策実施については、胃がん検診のあり方もきめて検討している。



ふるさと納税みんなでPRを